

平成30年度

会派新政会行政視察報告書

1 日 程

平成30年11月6日（火）～7日（木）

2 調査（視察）場所・調査（視察）事項

石川県能美市：ブランド化推進事業

3 出席議員

会派新政会議員

鎌田勝義会長・栗原肇会長代理・小勝裕真幹事長・齋藤和雄副幹事長

柿沼秀雄幹事・福島正夫幹事・齋藤理史会計・金子正則監査

4 調査結果

次のとおり

石川県能美市

○能美市の概要

【人口】50,177人 【面積】84.14km² 【H30 一般会計予算額】22,630,000千円 【議員数】17人

能美市は石川県の南部、加賀平野のほぼ中央に位置し、金沢へは北東約20kmの距離にあり、南には日本海側の拠点「小松空港」がある小松市が隣接している。市の北側には標高2,702mの白山から流れ出る手取川と梯川に挟まれた扇状地と、日本海に面した美しい海岸線があり、南側には白山山系に連なる、なだらかな丘陵地である能美丘陵を擁する、海・川・山・平地に恵まれた、非常に豊かな地勢である。

JR常磐線と国道6号が平行しながら町の中心部を南北に縦断し、南は大熊町、北は浪江町に接している。国道288号線で県の中央部である郡山市と結ばれていて、比較的温暖な気候が特徴で東北地方にありながら冬は積雪が少なく、とても住みやすい自然環境に恵まれている。

平均気温は14.1度、年間降水量は2,135.4mm。夏は暑く、冬は雪が多く、北西から季節風の影響を受ける日本海特有の気候である。

○能美市のまちづくりについて

日本全国の地方で人口減少が進む中であって、能美市は微増ながら順調に人口を伸ばしている。特に石川県内トップクラスの手厚い子育て支援策が実を結び、14歳以下の年少人口割合が石川県内の市で最も高く、若さが際立っている。平成27年の合計特殊出生率は1.73、石川県が1.51、国は1.46であり、能美市は高水準にある。

こうした取組により、宝島社が行った「2015年速報版移住者受け入れ人数ベスト100」では全国1位に輝いた。また、日経ビジネスによる「働く世代が住みやすい都市ランキング(2016年)」においては2位になった。

○子育て支援策の主な施策

- ・子育て世帯を応援するまち
- ・安心してママになれるまち
- ・子宝を望む世帯を支えるまち
- ・学校教育に地域ががんばるまち
- ・子どもたちの日常をキラキラと輝かせるまち
- ・家族で過ごして楽しいまち

■ブランド化推進事業について

能美市の農業の現状

【農家人口】1,159人【農家戸数】448戸【耕地面積】169,339アール

ほ場整備等、農地の整備については、合併前の各町で取り組んできており、90%以上整備は終了している。農林業センサスの推移で行くと直近の2015年とその20年前の1995年で比較すると、農家人口は、1/6に減少、農家戸数は1/3に減少している厳しい現状があり、後継者、担い手の不足等の課題がある。

また、その他の大きな課題としては、鳥獣対策がある。昨年度、160頭の鳥獣を捕獲したが、今年度は、既に190頭捕獲している。(主たる鳥獣はイノシシ)

主な質問事項

(1) 事業を始めた経緯について

平成17年2月根上町、寺井町、辰口町が合併して能美市が誕生したが、誕生から10年以上経過するが、市民のアイデンティティーとなるようなものがなかった。

市の特産品である加賀丸いもが、全国で17番目の国G I制度に登録され、同じく市の特産品である国造ゆずが石川県の特別栽培農産物に認証されたことにより、市民のアイデンティティーを満たすものとして、加賀丸いも、国造ゆずを柱とする事業を開始した。

(2) 農家等に対する支援制度について

市独自の補助制度というよりは、国、県等の各種補助金を活用しての支援が主である。

(3) ブランド化された農産物の生産及び販売の拡大について

生産者が減少し、それに伴い、生産量も減少している。生産拡大に対する支援を行い、生産量の減少に歯止めをかけるとともに販売力等を強化するため、異業種、他地域との連携推進を図る。

(4) 農協他各種団体等との連携について

農協とは、この事業に対する考え方の違いがあり、農協は関与していない。協議会等は、特に作っていないが、市独自の制度で地域おこし協力隊を配置している。この協力隊の職員は、市の非常勤職員であり、市内、市外の商工会等のつなぎ役を担っている。

また市では、農家に直接、問題点や要望事項を聞いている。

(5) 今後の課題について

6次産業化（農産物の栽培から、加工、販売までを担う）により、商品開発、流通ルートの拡大等を図るだけでなく、各種手法を含めた付加価値の検討を進めていく。

他地域の同一農産物との差別化を図る。

地元の人に知ってもらうため、地産地消の推進を図っていく。丸イモ、ゆずをそのまま販売するだけでなく（丸イモ、ゆずは高級食材で高価なため、店頭に並んでもあまり売れないとのこと。）加工品の一部に取り入れるなどしての販売も含めて考えている。

■所感等

農業に対する現状は厳しいものがある中で、ブランド化推進というのは、有効な手段と考える。

特産の加賀丸いもが国のG I制度に、国造ゆずが石川県の特別栽培農産物に選ばれるなどこの事業を進めるのに有利な条件はあるが、農協等関係団体と事業に対する考え方の違いにより、事業の進め方に苦労している印象を持った。行政と各種関係団体が同じ考え方で事業に取り組むことが改めて重要であると感じた。

生産量が減少傾向にあり、消費者（市民）が口にする機会がないので、加工食品等にして市民が口にする機会を増やすなど、試行錯誤を繰り返している印象があった。6次産業化計画を策定する予定があり、6次産業との連携に期待をしているようだった。加須市でも参考になる取組があるのではないかと感じた。

なお、能美市は、企業誘致、子育てに力を入れており、人口が増加しているとのことであった。